

エチゼンクラゲ被害

深刻

過去最悪の 12億円超に

青森県太平洋側 9～12月

青森県太平洋沿岸の10漁協（八戸、三沢、階上、おいらせ、六ヶ所の5市町村）のエチゼンクラゲによる2009年度（9～12月）の被害額が、過去最悪の12億2400万円に達したことが2日、分かった。昨秋から太平洋側に襲来し、秋サケの定置網漁を中心に漁業経営を直撃。漁獲量の減少に加え、漁具修繕費の負担が重くのし掛かる漁業者からは、「いつになったら抜本的な解決策が見つかるのか」と悲痛な声が上がっている。

漁業者悲痛 「抜本策を」



5市町村と10漁協で組織する東部海区沿岸漁業振興協議会（会長・種市一正三沢市長）が、三沢市漁民研修センターで開いた会議で明らかにした。報告によると、今シーズン（9～12月）の被害額は、これまで最悪だった05年度を2億円以上も上回った。また、水揚げ高は昨シーズンに比べ7億5千万円減少。漁具と漁船の被害額は4億円に達した。被害額を漁協別に見ると、百石町漁協が2億5000万円と最も被害額が過去最悪に達した青森県太平洋側のエチゼンクラゲ被害は昨年9月、三沢沖

多く、次いで八戸市南村ができることは、財浜漁協が2億3300万円、泊漁協が2億1600万円など。いずれも定置網漁の被害が目立っている。会議では、出席者から「もう県への陳情どころではない状況だ」「毎年、大型クラゲが来ると考え、何か具体策を打たなければ」との意見が出た。漁業者の中には、過去の大型クラゲ被害で抱えた借金を、現在も返済している人が多いという。会議終了後、百石町漁協の平野政儀参事は「漁獲減少と重なって二重に苦しい。これから廃業する漁業者も出てくるのではないか。一つでも何か具体策があれば」と頭を抱えた。協議会事務局を務める三沢市農政水産課の中野渡進課長は「市町

村ができることは、財政的なものに限られている。クラゲの発生源から絶てれば良いのだろうか」と話した。